

表

### 1 予報（5月）の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予報の根拠
うどんこ病	－	少	(1) 前年の発生量は平年並に少なかった。(－) (2) 耐病性の強い品種が、広く作付けされている。(－) (3) 5月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並であり、特に発生を助長する条件ではない。(±)
赤かび病	並	やや多	(1) ゆきちからの幼穂形成期は平年並（作況圃）。 (2) 前年の発生量は、平年より多かった。(＋) (3) 赤かび病抵抗性「やや弱」品種「ゆきちから」の作付けが多い。(＋) (4) 5月の降水量はほぼ平年並であり、特に発生を助長する条件ではない。(±)
赤さび病	－	並	(1) 前年の発生量は、平年並だった。(±) (2) 耐病性の強い品種が、広く作付けされている。(－) (3) 5月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並であり、感染に好適な条件。(＋)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(－)：少発要因、(－)：重要な少発要因

### 2 防除のポイント

#### 【うどんこ病】

- 前年及び既に発生が見られた圃場では、防除を実施する。
- 防除時期の目安は、穂ばらみ期及びその7～10日後である。

#### 【赤かび病】

- 赤かび病菌は、開花した穂に感染する。このため、開花期の防除が最も効果的である。ナンブコムギ、銀河のちからは、開花期の1回防除で効果が得られる。ゆきちからは、開花期と開花7～10日後の2回防除が必要である（表1）。
- 開花期以降に曇雨天が続く場合、ナンブコムギ、銀河のちからは1回目散布の7～10日後に、ゆきちからは2回目散布のさらに7～10日後に、追加防除を実施する（表1）。

表1 小麦主要品種の防除適期

品種名	赤かび病抵抗性	防除適期		
		開花期 (1回目散布)	1回目散布の7～10日後 (2回目散布)	2回目散布の7～10日後
ナンブコムギ 銀河のちから	中	<b>必須</b>	状況に応じて追加散布	－
ゆきちから	やや弱	<b>必須</b>	<b>必須</b>	状況に応じて追加散布

#### 【赤さび病】

- 前年及び既に発生が見られた圃場では、防除を実施する。
- 防除適期は、発病が見られた時及びその7～10日後である。
- 下葉からまん延するので、下葉にも十分薬液がつくように散布する。

### 3 防除上の留意事項

- 同一薬剤の連用又は同系薬剤の連用は、耐性菌が生じる恐れがあるので、効果の高い薬剤を輪番で使用する。